

仕事のやりがい、有意義性を考える ——東洋、西洋、実証研究

2022年2月26日（土）

13:00～17:00

事前申し込み制

（下記アドレスまでお気軽にお申し込みください）

E-Mail : irhsa@ml.aichi-u.ac.jp

プログラム

- 13:00～ 伊集院 利明
はじめに
- 13:05～13:35 伊集院 利明
仕事の有意義性の哲学研究の諸側面
Meaningful Work 哲学研究と Meaning in Life 哲学研究との架橋をにらんで
- 13:35～14:05 安達 悠子
心理学から考える仕事 職務満足とワーク・ライフ
- 14:05～14:15 休憩
- 14:15～14:45 神谷 智
日本近世史から考える仕事—「奉公」の実態について—
- 14:45～15:15 武田 圭太
キャリア概念の発展—職業適性から意味ある生活へ—
- 15:15～15:45 田摩 裕祐
私たちはどのような仕事を望むのか:仕事の価値(work values)と仕事の質(job quality)
- 15:45～16:00 休憩
- 16:00～17:00 質疑応答

お問合せ先・：愛知大学人文社会学研究所

<http://taweb.aichi-u.ac.jp/irhsa/>

441-8522 豊橋市町畑町 1-1

TEL : 0532-47-4167

お気軽にお問い合わせください

仕事のやりがい、有意義性を考える——東洋、西洋、実証研究

本シンポジウムは、仕事のやりがい、有意義性をめぐって、一つの学問分野に限定されない、多分野の視点からの考察を展開するものである。

仕事は多くの人間にとって重要なものである。人間は多くの時間を、仕事をして過ごす。仕事のやりがい、有意義性は、人間の生きがい、幸福感全体にとって極めて重要な役割を演じる。現在において、一方で、技術の高度化などに伴い、人間が仕事の有意義感を得られる場が、減少しつつあるのではないかという懸念がしばしば表明される。他方で、それにも関わらず、それなりに多くの人が、現在においても、仕事に有意義性を感じているという、そして、一見するとやりがいが感じられないのではないかと思われてしまいそうな、反復的な仕事の場においても、仕事の有意義性を見出している人々がいるという報告や、労働者の三分の一もが（職種や階層にほとんど関係がなく）自分の仕事を calling として受け止めているという報告もある。さらにもう一方で、今日において、様々な形で格差が問題となる中で、格差は単に収入についてのみでなく、有意義性のある、あるいは人間が有意義性を感じられる仕事の配分についても拡大しているのではないかという問題がある。さらには、AIの発展がそうした傾向にどのような影響を及ぼすかも注目される。

仕事の有意義感がどのように成り立つのかを解明することは、今日の社会においてはきわめて重要度の高い課題である。本シンポジウムは、こうした仕事の有意義性、仕事に対する人間の有意義感を、一つの学問分野に限定した視野からではなく、多角的に考察するための、見通しを与えることを狙いとする。この分野において、諸学間の横の連携を図っていく必要性は、世界の研究においても、注目されている。様々な分野を横断し、相互連携、相互刺激を図っていくことにおいて、仕事の有意義性についての研究は、より生産的になっていくであろう。特に哲学においては、この分野は、研究がやや遅れた分野、とりわけ実証研究に比して遅れが目につく分野であるだけに、他領域への参照は益するところが大きであろう。

講師紹介(登壇順)

伊集院 利明 愛知大学文学部教授

専門分野 価値についての哲学（幸福、生の有意味性、価値の全体構造）

主要業績 主著に『愛の哲学的構成』（2018年 晃洋書房）、『生の有意味性の哲学』（2021年 晃洋書房）

安達 悠子 愛知大学文学部准教授

専門分野 産業・組織心理学、社会心理学（安全行動、ものの使いやすさ）

主要業績 論文に「Web会議の適切な開催の実現に関する要因の探索」（産業・組織心理学研究, 2021年）
「医療に係る安全管理のための職員研修に関する事例報告」（労働科学, 2018年）など

神谷 智 愛知大学文学部教授

専門分野 日本近世史

主要業績 「近世における百姓の土地所有」「江戸時代の地方役人と村人の日常の日々 三河国八名郡岡部藩 半原陣屋御用状留帳を読む」

武田 圭太 日本大学商学部教授

専門分野 産業・組織心理学・生涯キャリア発達論

主要業績 主著に『“私”を選択する女性心理』（2016年 学文社）、『採用と定着—日本企業の選抜・採用の実態と新入社員の職場適応—』（2010年 白桃書房）など

田摩 裕祐 愛知大学文学部准教授

専門分野 社会学（労働社会学、社会階層論、社会意識論）

主要業績 『長期追跡調査でみる日本人の意識変容』（分担執筆, 2012年, ミネルヴァ書房）、『後期近代と価値意識の変容』（分担執筆, 2016年, 東京大学出版会）